

平成30年度第19回定例会

八王子市教育委員会議事録（公開）

日	時	平成31年2月27日（水）	午前9時30分
場	所	八王子市役所 事務棟8階	801会議室

第 19 回定例会議日程

1 日 時 平成 31 年 2 月 27 日 (水) 午前 9 時 30 分

2 場 所 八王子市役所 事務棟 8 階 801 会議室

3 会議に付すべき事件

第 1 第 68 号議案 八王子市第四次特別支援教育推進計画について

4 報告事項

- ・平成 31 年度学校選択制の抽選実施後の状況について (教育支援課)
 - ・市立中学校生徒に係る事故への対応状況について (指導課)
 - ・「走り方教室」の実施結果について (スポーツ振興課)
 - ・第 69 回全関東八王子夢街道駅伝競走大会の実施結果について (スポーツ振興課)
-

出席者

教 育 長	安 間 英 潮
教育長職務代理者	村 松 直 和
委 員	柴 田 彩千子
委 員	笠 原 麻 里
委 員	伊 東 哲

教育委員会事務局出席者

学 校 教 育 部 長	設 樂 惠
学校教育部指導担当部長	斉 藤 郁 央
学校給食施設整備課長	小 林 順 一
教育総務課長	渡 邊 聡
学校教育政策課長	橋 本 盛 重
学校複合施設整備課長	内 野 茂 樹
施設管理課長	松 土 和 広
保健給食課長	田 倉 洋 一
教育支援課長	穴 井 由美子
指 導 課 長	中 村 東洋治
教 職 員 課 長	溝 部 和 祐
統括指導主事	野 村 洋 介
統括指導主事	上 野 和 広
生涯学習スポーツ部長	瀬 尾 和 子
歴史文化構想担当課長	平 塚 裕 之
生涯学習政策課長	岡 本 洋
スポーツ振興課長	清 水 秀 樹
スポーツ施設管理課長	佐 藤 晴 久
学習支援課長	浅 岡 秀 夫
文化財課長	中 野 みどり
こども科学館長	遠 藤 讓 一

図 書 館 部 長	石 黒 み ど り
中 央 図 書 館 長	太 田 浩 市
生涯学習センター図書館長	新 納 泰 隆
南 大 沢 図 書 館 長	安 達 和 之
川 口 図 書 館 長	成 田 俊 雄
指 導 課 指 導 主 事	高 木 紘 二 郎
指 導 課 指 導 主 事	星 野 正 人
教 育 支 援 課 主 査	栗 澤 哲 也
教 育 支 援 課 主 査	山 田 光
ス ポ ー ツ 振 興 課 主 査	野 村 泰 史
ス ポ ー ツ 振 興 課 主 査	伊 藤 雅 佳
教 育 総 務 課 主 査	掘 川 悟
教 育 総 務 課 主 事	小 山 ち は る
教 育 総 務 課 主 事	池 上 光
教 育 総 務 課 嘱 託 員	古 瀬 村 温 美

【午前9時30分開会】

安間教育長 大変お待たせいたしました。

本日の出席は5名でありますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより平成30年度第19回定例会を開会いたします。

本市では地球温暖化対策、省資源対策の一環として節電等に取り組んでおります本定例会においても、照明の一部消灯を実施いたしておりますので、御理解いただきますよう、お願いいたします。

本日の議事録署名委員の指名をいたします。本日の議事録署名員は、笠原麻里委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

本日の議事でございますが、報告事項「市立中学校生徒に係る事故への対応状況について」は審議内容が個人情報に及ぶため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第14条第7項及び第8項の規定により、非公開といたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 御異議ないものと認めます。

安間教育長 それでは、議事を進行いたします。

日程第1、第68号議案 八王子市第四次特別支援教育推進計画についてを議題に供します。本案について、教育支援課から説明願います。

穴井教育支援課長 それでは、第68号議案 八王子市第四次特別支援教育推進計画について、御説明いたします。詳細については担当主査の栗澤からお答えさせていただきます。

栗澤教育支援課主査 それでは、八王子市第四次特別支援教育推進計画について御説明いたします。

平成18年10月に八王子市特別支援教育支援計画を策定し、その後の特別支援学級への就学人数の増加や、通常学級における特別な支援を必要とする児童・生徒への対応の複雑化から平成24年「第二次計画」を策定、障害に関する法改正や条例制定などを経て、平成27年「第三次計画」を策定し、平成28年4月から3か年で取り組んでまいりました。今回のこの第三次計画の計画期間が満了することか

ら、その成果と課題を検証し、今後本市が目指す特別支援教育の方向性として「第四次特別支援教育推進計画」を策定したものでございます。

内容について御説明いたします。計画策定には小・中学校、特別支援学校の校長先生方、障害や福祉の関係所管、医療関係者、当事者の保護者、市民を交えた策定会議で課題抽出や、活発な意見交換を行ってまいりました。昨年7月に第1回の策定会議を開催してから、5回の意見交換を経て、素案を作成、12月にパブリックコメントを実施し、全6回の策定会議を経て、本日に至っております。

なお、パブリックコメントでいただいた御意見については、実施段階における取組方への提案が多く、実行可能な御意見については、今後計画を実施していく上で参考にしていく予定であり、計画素案を変更するには至りませんでした。

次に、計画内容です。計画内容については、別紙、冊子を御覧ください。第1章は、「計画の策定にあたって」として、策定経緯や目的を示しました。

4ページ目、第四次特別支援教育推進計画の目的を御覧ください。本計画は第一次から第三次までの計画の継続性を踏まえ、ここに掲げる3つを計画の目的といたしました。

第2章は、「第三次計画を振り返って」として、その成果と課題をまとめてあります。

9ページ目を御覧ください。第三次計画の3年間で取り組まれた教員の研修や、特別支援教室の設置、地域連携や相談体制の充実等の成果を踏まえて、策定会議の中で課題を抽出し、検討をいたしました。

第3章は、「第四次特別支援教育推進計画」です。計画における施策目標とその具体的な取組をお示ししてあります。21ページを御覧ください。計画の基本目標は第1に特別支援教育を推進する体制の整備として、校内委員会による校内支援体制や教員研修による専門性の向上、学校サポーター等を活用した支援者の育成を行います。第2に、特別支援学級、特別支援教室における特別支援教育の充実として、義務教育学校における総合的な支援や、特別支援学級の再編、中学校への特別支援教室の導入をいたします。

第3に共生社会を目指した地域連携として、はちおうじっ子マイファイルを活用した切れ目のない支援体制の構築による庁内関係所管との連携や都立特別支援学校

の連携による小・中学校への支援体制への推進を図ります。それぞれについて着実に進めていくため、基本目標の下に施策目標を設け、それを具体的に進めていく具体的な取組みと主な取組み例の形で構成をいたしました。

23ページを御覧ください。具体的に取組をお示ししてあります。具体的な取組にある表については、1コマ推進体制の主体のほか、取組を進めるためのキーワードとなるものについては、推進のポイントとして、各年度の目標はその取組についての年次ごとの達成目標を示してあります。

第4章については、「用語解説」です。39ページを御覧ください。特別支援教育についての専門的な用語や障害名について本計画を御覧いただく上で参考となるように用語についての解説を掲載いたしました。用語については分かりやすいように、制度や仕組み、それから障害名というカテゴリー別に分け、あいうえお順に並んでおります。

49ページ以降の巻末については、本計画の策定にあたって設置した第四次特別支援教育推進計画策定会議の要綱並びに委員名簿と策定までのスケジュールを掲載させていただきました。

最後に、本計画の今後のスケジュールについてです。資料の5にお戻りください。3月に常任委員会で報告後、4月から施行、学校や市民の周知を図ってまいります。この機会に広く特別支援教育の理解・啓発を図るために5月に特別支援教育振興シンポジウムの開催も予定しております。説明については以上になります。

穴井教育支援課長 すみません、修正をしてください。3月の文教経済委員会への報告については、机上配布というふうにさせていただきますので、修正を願います。

安間教育長 只今、教育支援課からの説明は終わりました。本案について御質疑はございませんか。

村松委員 ありがとうございます。2点ございます。

まず、今回、マイファイルをはじめ、八王子市らしい現在の特別支援の集大成になっております。今後、この計画体系図の目標、また今後この取組を持続成功させていくためには、教員研修や学校の体制、特別支援学級再編や、この合理的配慮への対応、また、医療的ケアや難病児の受け入れ態勢、地域の保護者や啓蒙活動など、指導課、施設管理課、保健給食課、生涯学習政策課、各課が主体的にかかわって、

障害のあるなしにかかわらず、教育委員会が一丸となって取り組むべき事案だと考えておりますが、各課の皆様はどういうふうにこれから取り組んでいかれるのか、ちょっとご見解をお聞きしたいなど。

2点目は、栗澤主査に確認したいんですが、第三次計画から続けていくもの、第四次から新しく取り入れているもの、また八王子らしい特色もありますが、特にこれから力を入れていくものを教えていただければと思います。

以上、2点です。

安間教育長　　今、お名前の挙がった各課より順番にお願いします。

野村統括指導主事　　各課との連携等ございましたが、まず指導課といたしましては、来年度、協議体系を、特別協議会、研修体系を見直し、中学教員となる特別支援教育の高い専門性のある教員の育成に努めてまいりたいと考えております。その教員を各学校に配置し、そして、ここから特別支援教育の充実を図っていきたいと考えております。

ただ、やはり学校だけでできることではないので、特別支援教育、学校と関係他課と連携した取組のほうも本当に進めていきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

松土施設管理課長　　施設管理課としましては、今回の策定会議の委員のほうにも選出させていただいているところでは、先ほど教育委員のほうからお話ありましたように、合理的配慮、そういったものをこちらとしてはしっかりと施設の整備というところでは、対応していかなければいけないなと思っております。具体的には、車いす対応であるとか、あるいはバリアフリー化、そういったものを含めた中で、しっかりと、各課とも特別支援教育に対応できるように、こちらとしては考えていきたいと思っております。

田倉保健給食課長　　保健給食課としましては、就学時健診等で今も教育支援課と一緒にしておりますが、その時にできるだけ早く障害を見つけて、適切な教育に導いていけるように、また学校医と連携して適切な治療、早期の治療、あるいは専門機関へつながるようにしていきたいというふうに思っております。

岡本生涯学習政策課長　　生涯学習政策課からは、家庭教育という視点になりますけれ

ども、家庭教育においては、家庭教育支援講座という講座を実施しております。その委託というかお願いしている先につきましては、以前、教育委員でありました星山先生のところで学んだ方たちが、家庭教育支援業務、保護者たちに家庭教育支援講座を実施しております。そういった形で今後も家庭教育の視点からも支援していきたいと考えております。

粟澤教育支援課主査 2つ目の御質問についてお答えをいたします。三次計画から引き続き取り組んでいくものとしたしましては、まず、教員の資質の向上のための研修については、引き続き力を入れていきたいと考えています。

指導課と連携をしながら、教育支援課も取り組んでいくものと考えております。それから、八王子市の特色として、学校に入っている学校サポーターという地域の支援者の資質を向上させながら、地域と一緒に取り組んでいくということが、八王子市の特色となっておりますので、こちらについては、三次から引き続き四次の中でも、充実に努めていきたいというふうに考えております。

また、二次三次と特別支援学級、それから特別支援教室が地域の中で進んでまいりましたが、四次の中でいよいよ全中学校に対しての特別支援教室の設置が完了するような形での計画になっておりますので、どの学校の中においても、特別支援教育の実施できるような体制がとれるのではないかと考えております。その点については、三次、四次という形で引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

そして、特に四次の中で三次から引き続いていく上でさらに力を入れていかなければいけないと思っているのは、はちおうじっ子マイファイルについての取組だと考えております。マイファイルを通じて、特別支援教育としてのネットワークを構築すること、これは八王子市が教育や医療関係者と非常に協力体制をしっかりとをもって進めてきたこの、特別支援教育を進めてきたという大きな特色の1つの表れなのではないかと考えております。このネットワークをきちんと構築して障害のある子どもない子ども自分の目指す道をしっかりと見据えて、学校で教育を受けられるような体制を支援していけるようにということで、この第四次の計画の大きな特色になったのではないかと思います。

安間教育長 よろしゅうございますか。

伊東委員 ありがとうございます。

私のほうから2つお伺いしたいんですけれども、ちょっと今まで気がつかなかったんですけれども、第3章以降に23ページから、いろんな取組について書かれているんですけれども、そのボックスの中に書かれている表記として、各年度の目標のところ、例えば、平成31、32、33というふうになっていて、この目標とありながら、実施、充実とか、どういうふうはこの目標を見ていくのかが、表記の仕方として、今まで気がつかなかったんですけれども、やや分かりづらいのではないかという印象がありまして、各年度の目標というふうにしておくのであれば、やはりそこは何か目標らしい文言があって然るべきではないかなということが、お伺いしたいことの1つです。

もう1つは、これまでの市民の方なんですけれども、私のほうでも少しお話をさせていただきましたけれども、第3章の共生社会を目指した地域連携というところの 1 の要は交流及び共同学習のところ、34ページでしょうか。ここについては、私は通常学級の子どもたちが、そもそも地域の中から特別支援学校に通っている子どもとの交流をするということの、意図的、計画的に実施できる教育課程の枠の中で、行い得る非常に貴重な共生社会に向けた教育活動ではないかなというふうに思っておりまして、あとはイベント的に何か交流をするようなことはあるんですけど、こういった教育課程の中できちんと位置付けられるような活動をしっかりと計画的に実施するための、例えば児童計画案とか、モデルプランとか、こういったものをぜひ作っていただきたいというようなお話は以前にもしたつもりなんですけれども、この計画自体はこれで良いんですけれども、その計画のあとのプランとして、その後何か御検討が進められているのかどうかだけお伺いしたいという、以上でございます。

穴井教育支援課長 最初の御質問についてですけれども、今回、第二次からの計画から、この形をとっているんですが、どうして具体的にこれをやるというふうには書かないかというと、今回、具体的な取組をまず施策目標の次に掲げた中で、下に主な取組例というふうにあります。この全ての取組を実施することで、推進していこうとするものと、最初に計画を作った時に社会変化に対応できるような柔軟なというようなお話をしたかと思しますので、これまでの計画の中でもここに掲げる具体的な取組を主な取組例と書いてあるのも、具体的な取組に向けて実際にやるものが、

いくつもいくつもある中でそれを年度当初に実施になっているものについては、ほとんど年度当初に体制を整えて実施をして、それを3年間かけて充実して、P D C Aのサイクルの中で充実させていこうと、そのような内容で書かせていただいておりますので、各年度の目標や、「これがこう」というふうに具体的な目標や数値をあげて書くような形になっています。

安間教育長 2点目についてはいかがですか。

野村統括指導主事 交流及び共同学習につきましては、各学校、共同学習計画を作成して進めているところでございます。ただ、やはり、受け入れ側の責任については、受け入れ側の教員の問題も当然でございます。どういう体制、どういうことを考えて受け入れるかということも大切になっております。そこで、次年度以降、特別支援学校との交流、いわゆる教員が特別支援学校で研修に行って、そしてどういうふうな研修とか、こういうところもやはりこちらとしては充実させていきたいということで、今、特別支援学校と調整を図り、実際に行き、そこで学びというようなところでの、受け入れ先である教員の資質能力向上ということも、今、図っていこうというふうに考えているところでございます。

伊東委員 2点目のほうは、理解できましたけれども1点目の目標というものについての捉え方として学校にもこれからカリキュラムマネジメントなどを進めさせていこうというような動きがあるわけで、目標をしっかりと明確にもって目標に対して、どれだけ実際したかそれをチェックして、そして改善していくというP D C Aサイクルをあらゆる教育活動に根付かせるようなことをやって、お願いをしていこうというさなかですので、ぜひ、こういった市教育委員会の策定するプランの正規の目標を明確化する、そしてそれに関してしっかりと適正する、そしてそれをチェックして、改善するというような、そういうプロセスを明確に出す、これはこれで別がいいと思いますけれども、そういったことをしていく必要があるのではないのかなというふうに思います。

穴井教育支援課長 すみません、先ほど説明が足りませんでした。これはプランとして目標なんです。実際のP D C Aサイクルは予算、あるいは基礎プランで目標を明確にするとともに、毎年度行っています教育事務の点検評価の中に、今年度の目標、それから実施した成果についての評価、それをP D C Aサイクルとして回し

ながら計画の推進について図っていくと、そんな体制になると思います。

安間教育長　　今の伊東委員の御指摘については、この後、点検評価であるとか、そういったようなことで御対応していただくということでございます。

他にございましょうか。

柴田委員　　八王子市では、切れ目のない特別支援が充実してきているということが感じました。

質問させていただきたいんですが、学校教育を終えてしまとなかなか社会の支援の手が、障害をもっておられる方に届かなくなるというような現状があります。共生社会ということで、そういった方への社会参加支援ということで、例えば、生涯学習社会教育の分野で、障害者青年学級のような自立支援の講座、学校教育を終えようとしている青年を対象とした支援につきましてのお考えがあるかどうか、また、そういう取組があるかどうかということについてお伺いしたいと思います。

穴井教育支援課長　　今回の計画については、義務教育期間中の計画というふうに位置付けておりますが、先ほど栗澤のほうから説明したように、はちおうじっ子マイファイルの中で切れ目のない支援体制を行っていく中では、計画の1つに放課後デイとの連携を書いておりますが、今後そういった施設等についても八王子市の障害者施策の中心、あるいは福祉部のほうの取組、そうしたものを見据えながら、連携していこうというふうに考えてございます。

安間教育長　　他にございましょうか。

笠原委員　　特別な支援を必要とする児童・生徒への支援、保護者に対する支援ということで、32ページになんですけれども、ここで言っている特別支援教育は、全ていろいろ入ってくる、特別支援というのは、かなり今までもやっておりますから、ここであえてここで書かれている特別な支援とするというのはどんなことを想定して、どのあたりのことを念頭においているのかというのが1つ。

それから、もう1つ、25ページに多様な教育ニーズに応じた通常の学級におけるニーズというのが、本当に大変なことだと思うんですけれども、学校の現場の先生方が一番困ってらっしゃる部分の一つではないかと思います。そこにあたって、こういう、ここには大学とか医療機関と連携するとか、一人一人の先生方の基礎的な知識の定着とかということですが、いずれにしても時間のかかる、目の前に

そういうお子さんが入ってきてしまった時に、1年間担任になった先生が、この間に研修していたら間に合わないと思うんですね。そういう時にばっと何か対応できるようなシステム、あるいは誰か相談相手のようなものが、どのようなことが想定されているのか、お伺いできればと思います。

穴井教育支援課長　　まず、特別な支援を必要とする児童・生徒とありますが、障害等のお子様も指すことはもちろんなんですが、障害のある人もない人もという考え方の中では、例えば、不登校であるとか、その障害に関わらず、何らかの支援が必要な方、それ全体を指すというふうに考えております。

特別支援教育に向けた管理職のインターシップを始めた教員育成についてなんですけれども、やはり最近、新人の先生が増えてきている中で、なかなか組織としてそのスキルや知識を蓄積していくというのが難しい環境にはなっていると思います。そこで、私どもはLDの関係で、巡回相談の機会がありますが、巡回相談チームということで、教育センターの中に臨床心理士、それから作業療法士、言語聴覚士といった特別支援教育に必要なスキルをもつ専門家を配置しておりますので、そこが学校の要望に応じて、巡回をしていく中で、子どもたちの見方だけではなく、指導についても助言をしていく、あるいは今後特別支援教室が全校に展開していく中で、専門的なスキルを積み上げた特別支援教育の先生たちが在籍のお子さんを見る中で、対象の児童・生徒以外の生徒についても助言ができるような体制、そういうことを作っていきたいと思います。

それから、センター校にある八王子特別支援学校との連携を強化した中で、やはり教員の専門性の向上というのも図っていく必要があるというふうには思っております。現在も特別支援学校は巡回相談等で指導の方法が分からないとか、難しいという先生たちの支援をすごくやっていただいているので、今後もさらにお願ひしたいと思っています。

野村統括指導主事　　先ほどありましたように、指導力の向上ということで、やるには研修が当然必要になり、時間がかかってしまうというのがあるのは分かっております。今年度から、大学と連携いたしまして、15分程度の特別支援に関わるビデオコンテンツというのを実際に教員がいつでも見られるような状態にしてあります。なので、ちょっと空いている時間とか、そういうところでも少し見られるようにす

る。何よりも重要であるアセスメントの部分についてもやっぱり、理解を深め、指導していかなければ、効果的な指導はできないと思いますので、もう少し先生方が空いた時に簡単に見られるような、そういう形での導入の取組、資質能力の向上を負担なく図っていけるようなシステムを構築していきたいというふうに考えて取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

安間教育長 他にございませんか。

では、私のほうから2点ほど。特別支援教室に関する事で質問をさせていただきます。都のほうも特別支援教室についてはガイドラインもしっかりと順守して、内容を充実させてくれというような要請が今年もございました。当然、そのためには教員の指導力も、必要なんですけども、指導力を高めて、子どもを退級させていく取組が特別支援教室の場合には必要なんだろうなと思います。

1点目は先日、八王子特別支援学校の研究発表を見に行きまして、やっぱり、専門家はきちりとした指導をしている。こうした指導法は文章で学ぶものではなくて、実際にこう指導するのかという、生の姿を見るのもものすごい勉強になるなというふうに思うわけです。

じゃあ、本市のほかに誰が来ていたのかなと思ったら、設置校長会の、この計画にも携わっている校長先生が来ていたんですけども、1点目は、本市の教員は研究発表会、何人くらい行かれたんでしょうか。

2点目です。2点目は、その充実のためにということで、特別支援教室の巡回指導員を全校に配置する、全校拠点校化を実現していきたいとあるんですが、この主旨は、ぜひ、実現していきたいんです。そこでこれに対する都教委の反応と申しますか、都教委はどんな考え方をこれについて持っているのかです。まず、この2点を教えてください。

野村統括指導主事 申し訳ございません、特別支援学校の研究会に教員がどれだけいたかというのは正直、把握しておりません。申し訳ございません。確認しておきます。

穴井教育支援課長 都教委の考え方ですけども、都教委については、拠点を今後どこに置くかは市町村の教育委員会が考えることなので、そうした形をとることは可

能かというふうに考えていますが、特別支援教室の教員、巡回病院のスキルがまだ全部に、1人ないし2人置くだけの力が育っていない可能性があるので、そのところは、作るのであれば1校に対し2～3人くらいを、ベテラン職員と、若手の職員が置けるような体制が整えば良いんじゃないかというような考え方を持っているようです。ただ、現実的には教員の数が、うちのほうは学校数が多いのでそこまで置けないという不安はあります。

私どものほうは来年度に向けて、教員数が多い拠点校については、ここの形をつくるのに向けて、例えば1週間のうち4日間は巡回校にいけるような、そういった仕組みを検討してくる予定になっております。

安間教育長　ありがとうございます。1点目のほうはせっかく、ものすごい専門性を持った学校がここにあるわけです。また、伊東委員も学校、八王子特別支援学校の学校運営委員なんですよ。

伊東委員　学運協の委員長です。

安間教育長　本市にそういう方がいらっしゃるんですし、私は見ていて、こういうのは、見て学ぶのが1番力になると思えました。ぜひ、発展させて、先生たちが自分の空いている時間に見てくる。そんなシステムをぜひ作って、ノウハウをしっかりと吸収してください。

そのことが、2点目の穴井課長がおっしゃった教員の指導力の向上・資質の向上、どうもお話を聞くと、全校拠点校化を達成するためには私たちが中核市として教員の研修権を持っていて、力のある教員を育成していくということと同時に展開していくというような形になるのかなというふうに御答弁を聞いて思いましたから。ぜひ、2点目の全校拠点校化に関しては必要に応じて都市教育長会等で、強く要望していきますから、その要望が叶うような教員育成についてはぜひ全力を傾けていただきたいということで、要望しておきます。

他に御質疑はございませんか。よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長　御異議がないようでございますので、第68号議案についての御意見をいただきたいと思えます。

村松委員　本市は保護者や地域にまだまだ特別支援という御理解が少なく、最終的に

は切れ目のない支援とか、インクルーシブ特別支援という言葉がなくしても、特別支援が当たり前のようにになっていることが、本市の最終、最大の目標だと思っておりますので、今後、この特別支援学級の充実や合理的配慮を当たり前のように受けられることができるようになるには、やはり各課の連携、意思疎通がどうしても重要になってくると思いますので、連携をしっかりとっていただき、子どもたちが一生懸命、楽しく学校に通えるように皆さんでよく考えてやっていただければなというふうに切に願っております。よろしくお願いいたします。

安間教育長　本議案に関する今のことに関わることというのは、本件、この計画にありますか。各課連携してというような文言というのは。

穴井教育支援課長　基本的には切れ目のない支援体制の構築という中に、教育委員会と関係所管という形で連携体制のネットワークを作っていくという、そうした中に包括されているのかなというふうに考えてございます。

安間教育長　今のご指摘については本計画の案に位置付けているということで、よろしゅうございますか。

それでは、特に議案については御意見がないようでございますので、お諮りをいたします。

只今議題となっております第68号議案については、提案のとおり決定するということに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長　御異議ないものと認めます。

よって第68号議案については、このように決定することにいたしました。

安間教育長　続いて報告事項となります。

教育支援課から報告をお願いします。

穴井教育支援課長　それでは、平成31年度学校選択制の抽選実施後の状況について、ご報告いたします。

詳細については、山田主査から、御説明いたします。

山田教育支援課主査　平成31年度学校選択制の抽選実施後の状況につきまして、ご報告いたします。

資料のほうをご覧願います。

抽選実施校であります第三小学校、横山中学校におきまして抽選を実施後の辞退等によりまして、補欠登録者の繰り上げ当選、入学希望者の状況について報告するものです。抽選結果をご覧願います。

最初に、第三小学校になります。抽選後の入学決定者の補欠登録について平成30年11月3日の抽選実施日時点の入学希望者が受入予定数を上回ったことから、抽選を実施いたしました。その後、補欠登録者について、繰り上げ当選を決定する日と決めました平成31年1月15日現在、私立小学校への入学、再選択等によりまして6名が減となりました。よって入学決定者が142人となっております。そのため、補欠登録者でありました10人、そのうち4人が市立小学校への入学、他校再選択というものが出ましたので、減となりまして6名となりましたことから、補欠登録者6人の全員の繰り上げ当選を決定いたしました。

裏面をご覧願います。続きまして、横山中学校になります。抽選後の入学決定者及び補欠登録者について、平成30年11月3日、抽選実施日時点の入学希望者がやはりこちらの受入予定数を上回ったことから抽選を実施いたしました。その後、補欠登録者について繰り上げ当選を決定する日として決めました平成31年2月15日現在、私立中学校への、他校再選択によって、25名が減となり入学決定者は165人となりました。そのため、補欠登録者でありました28人、そのうち6人が私立中学校への入学、他校再選択をする者が出たことから、22人となりこちらも補欠登録者22人の全員の繰り上げ当選が決定いたしました。

報告は以上となります。

安間教育長 只今、教育支援課からの報告は終わりました。

本件について、御質疑はございませんか。よろしゅうございますか。

2点ほど、私の方から質問をさせていただきます。まず、第三小学校、全員希望者が入ったわけですけれども、大体で良いですけれども、いわゆる学区でないところから希望している子というのは何割くらいいるんでしょうか。それが1点目。

2点目は横山中学校なのですが、横山中学校はもともと何クラス、何クラスで設計をされていて、今現在、何クラス、何クラスという状況になっているんでしょうか。この2点をちょっとお聞きしたいんですが。

山田教育支援課主査 第三小学校の学区外、今回抽選対象者38人という形になっておりましたので、3分の1が学区内になっております。

2点目の横山中学校の施設の関係ですが、学級編制上は5学級で編制するような形で今、見て学級編制は行っているところです。

安間教育長 ありがとうございます。今、2点質問したのは、今回の抽選が実施された第三小学校と横山中学校、結果的に落ち着いて良かったですが、改めてこの結果を見て、小学校についてはやはり通学の安全性だとか、距離の問題であるとかそういったところというのが、一番大きなポイントになってくるんだらうなというところを感じた点。

2点目、中学校のことはやはり学習環境の問題で、とにかくいっぱい詰めこめば良いとかいうことではなくて、この前、総合教育会議で伊東委員からも話がありましたけれども、これからアクティブラーニングであるとか、そういった形で教育活動充実のための教室をちゃんとつくる、そんな学習環境が、ものすごく大事だなということを感じました。要するに小学校に関しては、安全・安心、中学校に関しては、学習環境、やはりここら辺が今後もこの選択制を検討する上での大きなポイントになるんじゃないかなというふうに感じましたので、意見として述べさせていただきます。

他に御質疑はございませんか。よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 それでは続いて、スポーツ振興課から2件続けて御報告お願いいたします。

清水スポーツ振興課長 それでは、去る1月26日、スポーツアリーナ八王子で行いました。「走り方教室」の実施結果につきまして、御報告申し上げます。

詳細につきましては、野村主査より行います。

野村スポーツ振興課主査 それでは、「走り方教室」の実施結果について、報告をいたします。それでは、資料を御覧ください。

まず、報告趣旨ですが、東京2020大会を契機にオリンピック・パラリンピックの機運醸成を図り、スポーツ振興につなげることを目的として「走り方教室」を実施いたしましたので、その結果について御報告をいたします。なお、昨年度、市

制100周年記念事業、スポーツ推進フォーラムの中で、中学生の提言を受けて実施した事業でありますけれども、この「走り方教室」は昨年9月に実施いたしました本市出身のオリンピックである、中村美里さんによる柔道教室に続いて、2つ目の事業となります。

まず、日時、会場についてですが、平成31年1月26日(土)、エスフォルタアリーナ八王子、メインアリーナにて実施いたしました。当日の講師ですが、ロンドンオリンピックでやり投げに出場いたしましたディーン・元気さんと、リオデジャネイロオリンピックで400メートルハードルに出場しました松下祐樹さんに講師を務めていただきました。

続いて、当日の参加状況についてですが、小学生69名の参加がございました。うち、9割近くが小学1年生から3年生の参加者でございました。

続いて、教室の当日の様子を裏面にて掲載しておりますが、普段あまり学べないような、腿を高くあげる練習ですとか、足の回転を速くする練習などのスピードアップにつながる基本動作を中心に行いました。また、途中ではレクリエーション要素を絡めましたリレー競走を間に挟むなど、参加者を飽きさせることなく、終始動き続けるカリキュラム内容となっております。

参加者の感想では、「走り方のコツを学んで運動会の徒競走で1番になりたい」、「運動会のリレーの選手になりたい」、「講師の選手がかっこいい」といった具体的な目標ともとれる感想や、選手への憧れといった感想が聞くことができました。

この事業に参加したことを契機にまだスポーツを始めていない子どもたちがスポーツに親しむきっかけとなること、また、将来のアスリートを夢見る子どもたちにとっては夢や希望を与える体験となり、今後もスポーツを続けるためのモチベーション向上に、つながることを期待しております。

報告は以上であります。

安間教育長 只今、スポーツ振興課からの報告は終わりました。

本件について、御質疑はございませんか。

伊東委員 御説明ありがとうございました。ちょっと質問なんですけれども、これは対象は小学生だけなのか、その辺はどうだったんでしょうか。

野村スポーツ振興課主査 今回の事業につきましては、小学生のこの時期にあらゆる

スポーツを通じて、走り方について学ぶことをきっかけに、生涯を通じてスポーツに親しめる環境づくりということを主眼におき、実施いたしました。今後、走ることにかかわる様々な競技に関心を持っていただきたいというふうに考えております。

また、今後は、すでに部活等で走ることに関わっております中学生のほうにも対象を拡大して、事業のほうを実施していきたいというふうに考えております。

以上です。

伊東委員　　ということは、小学校だけだと。それはそれで良いんですけども、中学生もきっと参加したいという子どもがいるんじゃないかというふうに思いましたので、今、お話がありましたので、今後また広げていただけるということでしたので、ぜひ、こういったことはまた充実していただければと思います。ありがとうございました。

安間教育長　　他にございましょうか。

柴田委員　　この事業について、募集のかけ方はどのように行ったのでしょうか。

野村スポーツ振興課主査　　こちら、周知の方法についてですが、市の広報、市のホームページ、プレスブックに加えまして、小・中学校のホームページにございます教育委員会からのお知らせ、こちらのほうでも、主情報がいつているという状況でございます。

以上です。

柴田委員　　回答ありがとうございました。こういった周知をされてみて、一番反応のあった周知の方法について把握されていましてら教えていただきたいと思います。

野村スポーツ振興課主査　　申し込みの段階で、どのホームページですとか、チラシですとか、こういった形での申し込みをされたかということにつきましては、アンケート等とっていない状況がございますので、大変申し訳ございませんが、その情報につきましては、把握をしかねる状況であります。

柴田委員　　分かりました。

安間教育長　　他にございましょうか。

それでは、私から1点、要望があります。今年はもうこの一連の取組、本当に大成功だというふうに思っています。一番のポイントはオリンピック・パラリンピアンが来て、その人と触れ合えたというそういう単発のことよりも、中学生が、提案

したものが実現したというところに私は一番の成果だと思っているんです。そのことはスポーツ振興課としての一番の腕の見せ所でもあったんじゃないかと思います。

来年度になったら、今度はスポーツ振興計画のところにもありましたけれども、オリンピック、パラリンピックの機運醸成とレガシー、創造という話になっていきますよね。だから、オリンピック・パラリンピアンを呼んで子どもたちに接したという、単発の話はもう今までもずっとやっていることで、誰が来るかというだけの話になっちゃっていますよね。そうじゃなくて、先ほど野村主査からも話があったとおり、この後にどう続いていくのかという視点、例えば、スポーツ振興計画でいうと、「見る」と「支える」の視点がないわけですよ。そのような形で来年のオリンピック・パラリンピックに向けて一連の機運醸成もひっくるめて、生涯学習のスポーツの土台づくりとか、そういった形の事業に今後、視点をシフトさせて、でき得るならばどんどん実施をしていってもらいたいなというものです。

それは例えば、走り方教室でいうならば、チャンピオンスポーツとしてやっている子どもたちを対象にやるのも良いんでしょうけれども、同時にそれだけではなくて、一等賞になれなくたってちょっとでも速く走る走り方とか、そういったものを指導できる小学校の教員を増やしていくとか、そういったものを絡めているような発展性のある事業にぜひ、取り組み始めて、オリパラに向けた一連の流れを構築してもらえるとうれしいなという要望をしておきます。

よろしゅうございましょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 それでは、引き続いてスポーツ振興課から報告をお願いします。

清水スポーツ振興課長 それでは、第69回全関東八王子夢街道駅伝競走大会の実施結果について、御報告をさせていただきます。

詳細につきましては、野村主査のほうから、お願いします。

野村スポーツ振興課主査 それでは、第69回全関東八王子夢街道駅伝競走大会の実施結果について、御報告をいたします。

まず、主催になりますが、全関東八王子夢街道駅伝実行委員会及び八王子市でございます。

続きまして、開催の日時等でございますが、平成31年2月10日、午前9時ス

タートで行われました。今回は前日土曜に降った雪の影響が心配されましたが、大会前日から、直前の早朝まで道路交通部の強力なサポートももらい、駅伝コースの安全確保に万全を期す形で大会を迎えることができました。

参加状況についてですが、497チームの申し込みがございました。当日は461チームが参加、437チームが完走をいたしました。

また今回の大会では、包括連携に関する協定を締結しております。東京医科大学八王子医療センターと連携いたしまして、大会本部に医師・看護師が1名ずつ、三か所の中継所に看護師1名ずつ待機していただき、選手の不測の事態に備えることができました。なお今回、選手のけがや体調不良者はなく、無事に大会は終了しております。

夢街道駅伝は毎回多くの市民の皆様の協力の上に成り立っています。ボランティアの人数は約1600名になるほか、メインスポンサーのスーパーアルプスや八王子市商店会連合会による、ふるまいブースが設置されるなど、単なるスポーツ大会ではなく八王子の風物詩ともいえるイベントとして、今年も開催することができました。

以上で説明を終わります。

安間教育長 只今、スポーツ振興課からの報告は終わりました。

本件について御質疑はございませんか。よろしゅうございますか。

69回ということで、市の名物になって素晴らしい大会でした。先ほどの流れで1つだけ注文しても良いですか。

来年はオリンピックイヤーの夢街道駅伝なので、何かそういう工夫はできないでしょうか。先ほどもちらっとお話をしましたけれども、さすがにカウントダウン、500日前というのでは早すぎますけれども、1年前くらいから各小・中学校でもオリパラの取組がはじまりますよね。また、先ほど様々なスポーツ関連のイベントもありますし、この夢街道駅伝なんていうのは最たるものですから、何というんですかね、1年くらい前くらいから少なくとも、各大会とかなんかある時に、何日前の今日のバドミントン大会ですとか、そういうことを宣伝して徐々に、盛り上げていくような、そんなことはできないでしょうか。夢だけ語っておくと夢街道駅伝にそういう方が出てくれて、出場してもらってオリンピックへの機運が盛り上がると。

ぜひ、そういった工夫をしていただけるとうれしいなと、来年も成功するように頑張ります。

村松委員 意見よろしいですか。

大変多くのボランティア、またはメインスポンサーのスーパーアルプスさんや、商店街の皆様、本当にご協力ありがとうございました。感謝を申し上げます。それと、こちらに関わってくださった市教委の皆様、御苦労様でした。

お聞きしたかったのは、この1部一般男子の1位が1時間6分8秒ですよ。それで私、お聞きしましたら7位に市長部局との連合とのチームが走って、7位に入ったと聞いたんですけれども。御存知ですか。

野村スポーツ振興課主査 リザーブのほうで確認はできますけれども、私のほうではちょっと。

村松委員 ありがとうございます。

オリンピックでオリンピックイヤーに入るということで、市の皆様一生懸命走っていただいて7位って、これ中央大学さん1時間2分20秒なんです1位が。多分、1時間8分とかと考えるととてもすごい速さですよ。市教委の皆様もそういうのを考えて、オリンピックで盛り上げていたんじゃないかなと。走っていただければ、指導担当部長、走りたそうな顔をしているので、みんなで盛り上げていくというのも、機運になると思っていますので、御検討いただければと思います。以上です。

安間教育長 他にございましょうか。よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 それでは、報告として承らせていただきたいと思います。

これで、公開の審議は終わりますが、委員の方から何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 ないようであります。

それでは、ここで暫時休憩にいたします。なお、休憩後は非公開となりますので、傍聴の方は退席をお願いいたします。再開は35分とさせていただきます。

【午前10時27分休憩】